ティーチング・ステートメント

所属　北海道科学大学

名前　戸田貴大

作成日　2020年9月9日

更新日　2023年3月22日

【責任】

薬学科の教員として、主に薬物動態に関する講義（3年次：薬物動態学I、II、臨床薬学II）・演習（6年次：総合演習II、臨床薬学総論）・実習（3年次：臨床薬学実習I）を担当している。この他、1年次の薬学概論（1コマ）、1-6年次のクラス担任および4-6年次の卒業研究の指導教員も担当している。

【理念】

私の教育における理念・理想は、学生が「自ら学ぶ姿勢を身につけること」である。卒業生の多くが薬剤師として病院や薬局で働く中、絶え間なく進歩する医学・薬学の世界に貢献し続けるためには、新しい情報・知識を得よう、身につけようとする生涯学修者としての姿勢が重要である。一方で、大学はものを教えてもらう場所ではなく、ものを学ぶ場所であるにも関わらず、高校までの延長で、受動的な学修を続けている学生が散見される。また残念ながら、知識を身につけるのではなく、その場しのぎのテスト対策に終始する学生もいる。そのため私は、自ら学ぶことの面白さを学生に伝えることができる内容の講義等を提供することで、理念の達成へと努力したい。

【方針・方法】

「学生が自ら学ぶ姿勢を身につける」ために、「該当科目の面白さが伝わる授業を提供する」こと、および「学生の努力・取り組みを正しく評価する」ことを目標に、講義等を構築している。

方針1「科目の面白さが伝わる授業を提供する」

・授業開始時に、その日の達成目標を明記することにより、今日のこの授業で何を学んでほしいのか、何ができるようになることが目的なのかを学生に伝えている。これは、ゴールを明確にして学生の達成欲を刺激することで、学修効率が上がると考えるからである。可能な限り、薬剤師として現場で働く場面で、今学んでいる内容がどのように活用できるかについても触れるようにしている。

・学生からの質問は、オフィスアワーに関係なく随時受け付けており、遅くても翌日までに回答することで、学生の学びたい気持ちを削ぐことのないよう心がけている。

・卒業研究の調査研究においては、実務実習で興味を持ったことをテーマとして取り上げるようにしており、予め学生にもそのつもりで実務実習に取り組むよう伝えている。

方針2「学生の努力・取り組みを正しく評価する」

・継続的な学修習慣を身につけてもらうために、毎回ではないが授業終了後に演習課題を課している（薬物動態学では定期試験の合否判定の20%、臨床薬学IIでは25%）。

・一部の学生には、始めから再試験での合格を考え、定期試験の勉強を怠っているとしか思えない回答を提出する学生がいる。これには、再試験、仮進級試験と進むにつれ、問題が簡単になるのではないか、通してくれるのではないか、という考えが見え隠れしている。このような甘えを取り除くために、最終講義の際に、定期試験、再試験、仮進級試験で問題レベルを変えないことを宣言している。

【評価・成果】

・授業アンケートによると、授業開始時に、その日の達成目標を明記することは、好意的に受け入れられている。また、授業で用いるpptファイルもわかりやすいと評価をもらっている。

・これまで最終講義後に総まとめの演習問題を提示していたが、学生の申し出を受け、2023年度より、継続的な事後学修のためにその日ごとに関連問題を提示するように変更する。

【目標】

主に担当している薬物動態の科目について、

・長期的には、授業内で問題演習に充てる時間を増やしたい。そのためには、講義中の説明時間を短くしなければならず、学生の事前学修が必要である。

・短期的には、定期試験不合格者を20名以下（学年人数の10%以下）としたい。魅力的な授業、適切な形成的評価、演習問題の提供を実施することで、2025年度までに達成したい。